

駅前公共用地の利活用の検討について

社会経済情勢の変化をしっかりと捉える

1. 本格的な少子高齢化・人口減少時代の到来

- 大きく増加傾向にあった栗東市の人口・世帯数も、現在では微増傾向となり、今後は**地域活力の低下**や**税収の減少**などが予測されています。
- 栗東駅周辺においても、これまでのような大きな人口増加は見込めず、交通結節拠点として**公共交通の利便性向上**や**歩行者・自転車利用者が安心して行動できる環境づくり**が求められています。

2. 長引く景気の停滞・公共投資への制約の高まり

- J R 栗東駅が開業した平成 3 年から約 20 年が経過し、当時から社会経済情勢が大きく変化しています。
- 栗東市においても、この 20 年の間に、新幹線新駅事業の中止、新都心地区土地区画整理事業の廃止など、大きく都市づくりの方向性の転換が求められてきました。
- 公共投資を取り巻く状況が厳しさを増し、**適切かつ計画的な維持管理**が重要になる中、建物をリノベーション※やコンバージョン※するなど、「造る」ことから**今ある資源を上手に「使う」**ことが重要になっています。

3. 地方分権の進展、市民参画と協働のまちづくりへの意識の高まり

- 国から地方への権限移譲が進展し、地域組織やNPOなど、**多様な主体**がまちの課題解決に取り組もうとする動きが広がっています。
- 公共の分野においても、**市民団体等の活動実績や豊富な経験、ノウハウ**を積極的に活かしながら、市民が利用しやすい公共サービスや公共空間を提供することが求められています。

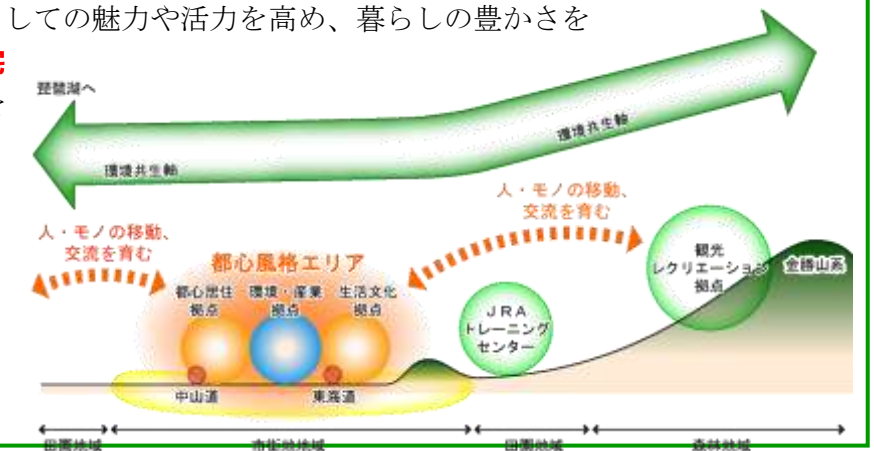
4. 環境共生社会や自然災害に関する意識の高まり

- 地球温暖化防止の取り組みが各地で見られるようになり、低炭素社会の実現に向けて、**徒歩や自転車、公共交通機関の利用促進、自然エネルギーの積極的な活用、環境に優しい暮らし方**など、環境に対する市民の意識が高まっています。
- 東日本大震災の発生や増加する集中豪雨などの自然災害を受けて、市民の自然災害に対する意識が高まっています。
- 今後は、災害の未然防止対策に加え、**ソフト施策を含めた被害軽減対策**などにより、安心・安全なまちづくりが求められています。

市のまちづくりの方針や市民の意向を踏まえる

5. 『風格都市栗東』の骨格となる都心居住拠点

- ウイングプラザや栗東芸術文化会館さくら等に加え、さらに**都市機能の集積度、文化性**を高め、安心して**都心居住の楽しさ**を味わうことができる良好な市街地環境の形成を進めます。
- 栗東駅周辺では、広域交通の結節拠点として、**観光・地域情報の発信**を進めるとともに、**都市と森林・田園地域の交流の場、文化活動による市民の交流の場**として活用を進めます。
- 草津市や守山市と一体となった日常生活圏を踏まえ、暮らしの**利便性や快適性**、拠点としての魅力や活力を高め、暮らしの豊かさを実感できる**住宅市街地**の形成を目指します。



6. 公共用地の魅力や利便性の向上

- 栗東駅前地区計画**に沿った土地利用や景観の誘導
- 栗東駅に**エレベーター設置**の検討
- 栗東駅への**新快速列車の停車**に向けた取り組みの推進

7. 交流空間としての活用

- 観光案内所**の設置検討、市内の観光資源との連携促進
- レンタルサイクル設置**の検討
- 栗東芸術文化会館さくらを中心とした音楽などの**文化活動による交流促進**

今後、栗東駅周辺にも訪れる少子高齢化・人口減少を見据えながら、今ある資源を上手に活用することが重要。

さらに、その進め方に当たっては、民間や多様なまちづくり団体等との連携・協働のもと、環境や景観、安心・安全なまちづくり、交流等の取り組みが重要。